**アンケート・ピックアップ**

**7月7日　高知県安芸郡馬路村　村長　上治　堂司　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

地方の商品をブランド化していくという考えは、私にもあったが、村や町自体を活性化させるためには、村自体をブランド化するという地域全体を生かした取り組みが大切なのだと感じました。まだ、周りに伝わっていない地方各々の魅力を届けるための施策のクリエイティビティーに感銘を受けました。地方の環境をそのまま生かしていく産業を私も地元の町のために考えていきたいと思います。そのような機会をいただけて感謝しています。また、木のカバンを見させていただきましたが、木の香りも感じられ、とっても丈夫で素敵だと思いました。また、私としては肩からかける小さめのバッグならもっと需要を増やすことが出来るのではないかと思いました。（経営・経営・一年）

　同じ四国の愛媛県の、それも過疎地域指定されている町の出身である自分にとって、今回の村長さんの講義はとても興味深いものでした。今までに馬路村のことは少し知っていて、馬路村のヒット商品である「ごっくん馬路村」を飲んだことがありますが、とてもおいしかったです。自分の町も実はゆずが特産で、ジュースなどを販売しているのですが、馬路村と違って民間会社が経営しています。しかし、講義で官の立場が６次産業をすることで、“まち”のブランド力を高めていくという考え方は新しくて、ぜひ地元のみならず、各地でやっていくことで、地域の活性化が出来るのではないかと思いました。（経営・会計情報・一年）

　馬路村の商品はどれも創意工夫がされていて驚きました。商品そのものではなく商品を作る村をブランド化するという考え方は参考になりました。また商品を売るにあたって何が大事なのかよくわかりました。また、消毒したくないからゆずの加工品が生まれたエピソードは面白かったです。（理工学部　電子情報系学科　三年）

ごっくん馬路村の名前は聞いたことはありましたが馬路村について知っていることがあまりなかったので事前に馬路村について調べ、その知識に合わせ村長の話を聞き、より楽しんで話を聞くことができました。馬路村は四国にある村の中でも人口が少ないほうの村なのに「日本で最も美しい村」連合に加盟したり、村の特産品を活かし村を活性化させたり自分の村に誇りと自信を持ち、村と考えられないくらい目立っていてすごいと思いましたし、村長さんの熱意が伝わってきました。森を守るために森の保護のみに力を注ぐのではなく森林の循環を良くしていてすごいと思いました。(理工　建築都市　1年)

１つの集合体としての村を会社のように運営する村長さんのお話は非常に新鮮で勉強になった。財源の確保が難しく、村自体の数も年々減少していく現状で、村自身がブランドとして世間に名前を広め、商品を売ったり観光客を獲得していく姿勢はまさに企業経営そのものであると思う。また、資金運営もその規模も小さく企業も参入しにくい中でどこに企業を村に呼び込むかそれを考える経営も企業同士で連携協力していく納得のいく運営だといえる。(教育人間科学部　人間文化課程　1年)

日本で少子高齢化や地方の過疎化が進み、地方創生が叫ばれている今では少なくなってしまった“村”や森林に囲まれているという一見不便に思えるようなものを振興策として用いたり、消毒をしていないゆずを加工し、環境への優しさや安全といったイメージを売り出しているお話を聞きお客様の立場にたって考えたり、感動があればなんとでもなるといった経営にとって大切なものを感じました。お話の最後の「やらないことは失敗だ」という言葉はリスクに対して消極的な自分を諭されているように感じました。四国へ訪れる機会があった時には是非訪れたいと思います。（経営・経営・1年）

　村長さんのお話が聞けるということで、今回の講演はとても楽しみでした。「馬路村」というブランドを作るという話が印象に残っています。田舎は田舎で、独自の良さを見つけて伸ばしていくのが良い、というのが私の意見です。都市部のまねをして、ビルを建てたりしても、あまり活性化には効果がないと思います。その土地のもの、人、自然が上手く溶け込むような観光こそが村や田舎の人気をUPさせるものだと思います。私は和歌山県の出身なのですが、和歌山には多くのビルがあるし、テーマパークだってあります。それでもどんどん人口は減っていくし、観光客は一向に増えません。その理由は、全てが他のマネだからです。オリジナルのブランドが確立されていないのです。私は、和歌山の魅力は山と海という自然があって、アウトドアが楽しめるところ、おいしいみかん、かき、もも、梅を育てていて、鯨の漁もしているところで、魅力はたくさんあると思っています。けれど、大学進学で横浜に来て、和歌山の知名度の低さに驚きました。和歌山も、馬路村のようにまちづくりというものを考え直して、より良いまちになれば良いなと思います。(経済・国際経済1年)

「物事をするには人を感動させなければならない」という言葉が印象的でした。現在、インターネットの情報網が張り巡らされ、誰とでもコミュニケーションをとることができますが、真心、感情が忘れ去られているような気がします。木のうちわなど、相手に気持ちを伝えられる、形だけにとどまることのないものであるのでとてもいいと思いました。（経営・国際経営・１年）

　今回の講義では、普段の「新しい価値の創造」を目指したベンチャー企業の社長の方とは違う「今ある価値の再発見」別の方向性を持った経営方針について聞くことができ、大変勉強になった。村長の、今のメディア社会は地方にとってもプラスになると言う話がとても印象に残り、日本には今だからこそ生きてくる価値がまだまだ残っていて、それを発信していく大切さがわかった。これからの社会で、とにかく新しいものに注目していくだけではアメリカや中国についていけないと思う。日本にしかできない戦い方を考えたとき、地方に再注目するのは有効な手段であるように感じた。（経営　経営システム１年）

村というのは、全国でたった183村しかないのかと驚きました。村を有名にして観光客を増やし、ブランド化することが村の存続につながるのだと改めて思いました。ここで学んだことは、意外にも村を活性化させるためには、流通・交通網の不便な地域には誘致企業が入れないということでした。私はそれを聞いたとき、なるほどな、と感心しました。また、産業も先人が作り上げた地域の資源を利用したビジネスでないと村をブランド化することができないと知りました。馬路村のゆずを利用したビジネスで成功したことは納得できました。私はNZに1年間住んでいて、NZも同じく都会でもなく牧場や森林に囲まれていましたが、ビジネスが上手い国だと思っていました。というのも、ハチミツを利用して、クッキーやハンドクリームといったものをお土産にして、売っていました。それと馬路村のゆずとは共通点があったように思いました。　　（経営学部　経営システム科学科　1年）

　私は将来、東南アジアの地域と日本の地域を、第六次産業を通してつないで地域の活性化を行い、人々の生活の基盤となる仕事がしたいと考えています。今回のお話は実際に、第六次産業に取り組まれていることやどのようなプロセスでどこに注意して行っているかという実例を知るのによい機会となりました。中でも、産業振興策についてまとめてくださったので、これからプランニングしていくためにぜひ参考にさせていただこうと思います。また、定住人口の確保についてどのように行っていけばよいのかということがあまりわかっていなかったのですが、確かに雇用を確保することは定住につながると考えられました。さらに、ブランド化というのはとても時間がかかると思います。人材育成、プランニング、顧客確保、資源確保など…。そういったことを乗り越えてブランド化できていることが素晴らしいと思いました。デザインやイメージの重要性がよくわかりました。あまり、第六次産業について伺う機会がないので今回はとても刺激的な時間を過ごすことができました。是非、村にお邪魔させていただきたいと思います。（経営学部経営学科1年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

馬路村は、「馬路村ブランド」を作っていこうと事業を行なってきたと、今日学びました。ならば、個人の場合でも同じで、「私のブランド」つまり、他にはない自分自身の価値を作りあげていきたいと思いました。それは決して短い時間で作ってゆくものではない、もっとオンリーワンの何かを探していきたいと思いました。そしてそれは、もしかしたら新たに身につけるものではなく、馬路村のように自分の中から見つけるものであり、それが望ましいと感じました。　　　経済学部　経済システム学科　1年）

一つの商品にも、いろいろな思いを込めて、いろいろな価値を提供できるということを学んだ。社会に何を提供したいかということを考えると同時に社会にどんなメッセージを届けたいかということを考えていきたいと思う。（経営・会計情報・1年）

母国のベトナムにも、いろいろな潜在的な産業があり、資源も豊かなのに、自分が自国のことをあまり知らないことに気が付いた。自分のことをもっと知ることが大切で、ベトナムならではの産業をさらに復興したいと思う。（経営・国際経営・１年）

**授業スタッフの感想１**

私は今回の上治村長の話をきいて改めて自分から情報などを発信していくことの大切さを学びました。また、ゆずの話を聞いて、もしピンチがあっても全く違う発想の転換によってそのピンチをチャンスに変えることができるということを学びました。そこで、これから自分から積極的に物事にチャレンジをして情報というか自分という人間を発信していくとともに発想の転換によりイノベーションをおこしていきたいです。